

[月刊]キリスト教書評誌

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2018年10月1日発行(毎月一回発行) 第730号

ISSN 0286-7001

# 本の ひろば

10 OCTOBER  
2018

## 出会い・人

キリストの道を歩く日本人の足に合った靴  
山根道公

## 本・批評と紹介

ピンク・ダンデライオン 著／中野泰治 訳  
クエーカー入門 山本 通

ス・ラッサム 著／浜島 敏 訳  
十字架の道を辿る 中田智之

鈴木 光 著  
伝道のステップ1、2、3 深谷与那人

ピーター・スピーア 作／小宮 由 訳  
魚にのまれたヨナのおはなし  
友野富美子

加藤哲平 著  
ヒエロニムスの聖書翻訳 小高 毅

古荘純一 著  
発達障害サポート入門 大澤 宣

菊地 順 著  
ティリッヒと逆説的合一の系譜  
安酸敏真

松谷信司 編著  
宗教改革2.0へ 富田正樹

近藤勝彦 著  
十字架のキリスト以外に福音はない  
高橋 潤

大嶋裕香 著  
神に愛された女性たち 岩田三枝子

石田 学 著  
エフェソ書を読む 藤原導夫

既刊案内  
書店案内



# 剣を収めよ 創造的非暴力と福音

ジョン・デア著／志村真訳

イエスの招きに応える

暴力が溢れるこの世界のただ中で、イエスの非暴力への呼びかけに従おうとした多くの福音の証人たち。ある者は言葉、ある者は歌、ある者は市民的不服従で……。創意工夫に満ちた非暴力的平和創造の可能性を追求する。

◆四六判・本体1800円

# ルターはヒトラーの先駆者だったか

宮田光雄著 宗教改革論集

大反響

ホロコーストの惨禍にルターは責任があるのか？ 予定説の真の意味とは？ 宗教改革期の芸術家たちの信仰理解は？ 宗教改革の遺産を探る。

◆四六判・本体2750円

# イエスのたとえ話の再発見

ヨアヒム・エレミアス著／南條俊二訳

初代教会の寓喩的解釈によって歪められた「たとえ」の本来の意味に迫った金字塔的名著。最終改訂が反映された英語普及版からの新訳。

◆四六判・本体3000円

# エフエソ書を読む 釈義と説教

石田学著（いしだ まなぶ氏は日本ナザレン教団小山教会牧師）

多様性の中の一致を求め続けた初代教会の先達たち。

◆四六判・本体2000円

# クエーカー入門

この知られざる重要な教派の全てを第一人者が解説！

ピンク・ダンテライオン著／中野泰治訳

◆四六判・本体2400円

## 2018 年いち押しのクリスマス絵本!

ヴァン・ダイク作／中井俊巳文／おむらまりこ絵

# もうひとりのはかせ

「アルタバン物語」としてクリスマス劇でおなじみの名作、待望の絵本になりました!

救い主に捧げるために、自分の全財産を売って宝石を用意したアルタバン。でも3人の博士たちに遅れてしまった彼は、ひとりて救い主を尋ね求めて、33年間も放浪の旅を……。



著 ヴァン・ダイク  
文 中井俊巳、おむらまりこ  
絵 おむらまりこ

◆A4 変型判・1400円



## 出会う・本・人

### キリストの道を歩く日本人の足に合った靴——山根道公

学生時代、キリストの道を歩く自分の足に合った靴を探していた。西欧キリスト教の伝統的靴がどんなに立派でも合わない靴を無理に履いて歩けば足が痛くなつて脱ぎたくなる。日曜には履いても普段は脱いでしまう靴ではなく、人生の最後まで険しい道を歩くのを支えてくれる靴、日々履いているのが喜びで周りにも勧めたくなる靴、そんな靴に一冊の本が出合わせてくれた。井上洋治神父の『余白の旅』は、生涯を賭けて日本人であり現代人である自分の足にぴったりくるキリストの道を歩む靴を探し求めた思索と実践の旅といえる本であった。

私は中学生の時に腎臓病を患つて長い療養生活を送り、世界の名作を読む中で、そこに登場するキリスト者の姿に心惹かれ、それを通して何か光が心の深奥に差し込んでくるのを感じた。特にドストエフスキーの『罪と罰』や『カラマーゾフの兄弟』を読んだ体験は強烈な光を受けて魂が揺さぶられた。そうした文学体験を通してキリスト教への関心が強まる中で地方の高校から東京の大学に進み、幾つかの教会に通つたが、そこで経験は文学体験によって味わうキリスト教的の世界とは隔たりのあるものもあった。そんな中、大学三年の時、井上神父の『余白の旅』に出会い、「ああ、これだ」と、この靴を履いて自分もキリストの道を歩みたいと心から思えた。本には、井上神父が

ドストエフスキーの背景にある、思弁より体験を重じる東方キリスト教の神学に触れ、深い心の共鳴を感じた体験も語られていた。

直ぐに井上神父を訪ね、卒業時に受洗した。それから三十年、神父が一人でも多くの日本人にイエスの福音の喜びと安らぎを伝えたいと創設した「風の家」の活動を手伝い、その機関誌「風」を発行してきた。井上神父は四年前に帰天されたが、その後も遺志を継いで発行を続けている。さらに『井上洋治著作選集』全十巻が、井上神父によって福音に導かれた多くの人たちの支援を受けて刊行された。『余白の旅』は第二巻に入っているが、十巻すべてが現代日本人である自分の足にぴったりと合う靴を示し、キリストの道を人生の最後のゴールまで歩きぬくことのできる喜びと安らぎをもたらしてくれる書であるといえる。

私は編者としてその全巻の解題を担当したが、自分の人生を決定的に導いた本を再び世に送り出す仕事ができたいとは大きな喜びであった。キリスト教に惹かれながら、何か合わないものを感じる日本の多くの人にぜひ読んでいただき、こんな靴なら自分も履いてキリストの道を歩んでみたいと思える靴に出合っていたきたいと切に願っている。

(やまね・みちひろ) ノートルダム清心女子大学教授

知られざる信仰集団の内奥に迫る  
ピンク・ダンテライオン著  
中野泰治訳

## クエーカー入門



山本通

本書はオックスフォード出版局から出されているA Very Short Introductionsシリーズの一冊を訳したものである。クエーカーは現在、全世界の会員が四十万人にも満たないプロテスタント・グループであるが、信者数が少ない割には英米で多くの偉人を輩出し、社会的にも平和運動や奴隷解放運動などで重要な働きをしてきた。現在の日本の会員数は一〇名程度であるが、訳者が解説で力説しているとおり、新渡戸稲造もクエーカーであり、その門下の多くのクエーカーたちが戦後日本の形成発展に深く関わってきた。

著者名のピンク・ダンテライオンはペンネームであるが、訳者によれば、バーミンガム大学名誉教授でクエーカー研究の第一人者である。この小冊子の中で著者はクエーカーの複雑な歴史とその現状を、手際よくまとめて説明している。本書は七つの章からなる。第1章は導入部で第7章はまとめである。第2章ではクエーカーの歴史が概観され、第3章から第6章まではクエーカー内部の諸グループの宗教的特徴が四つのテーマについて解説される。

視し、特異な言葉遣いと簡素な生活様式と服装を維持し、家庭内修道生活を実践した。

こうした状況が大きく変わるのが、一九世紀初めである。福音主義の信仰復興運動の影響がクエーカーに及び、イギリスでは一九二〇年代に福音主義派が正統派になった。彼らは「内なる光」よりも聖書の権威が勝ると考え、プロテスタント主流派と連携して伝道や社会改革運動に活躍した。また、一八世紀クエーカーの特異な生活様式を次々に廃止して、「普通の人々」に変わっていった。しかしイギリスのクエーカーの思想は、一九世紀末以後、全体として地滑りの自由主義に変化していった。

クエーカーの信仰は一七世紀末にウイリアム・ペンがペンシルヴァニア植民地を拓いてから、北アメリカに移植されたが、一九世紀以後の合衆国のクエーカーの歴史は、イギリスよりも複雑である。一九世紀以後さまざまな分派が形成され、二〇世紀にはそれらが福音派、保守派、自由主義派の三つのグループ

クエーカーはピューリタン革命期のイングランドの宗教的混乱の時期に誕生した。クエーカーの創始者、ジョージ・フォックスは宗教的な模索の果てに、一六四〇年代の末に神からの啓示を受けて、神との直接的な出会いと「内なる光」の導きに従うことによる「変容」を体験した。彼はさらにイングランド北部でシーカーの群れに出会い、「沈黙の礼拝」の中で神の働きを待つという彼らの考えを取り入れた。また、ここを拠点としてイングランド、さらには全世界への宣教活動を開始した。彼らは、全ての人がキリストの内的再臨を経験することによって、全世界を変容させることができると考えたのである。しかし王政復古期にクエーカーは他の非国教徒諸派とともに、あるいはそれ以上に激しく弾圧されて終末待望を失い、「中間期を生きる」という意識を持つようになる。迫害から信者を守るために、教会業務集会の組織を形成し、無給の長老職と宣教師職を設け、個々の信者が受けた「啓示」を共同体として検証する仕組みが形成されていった。一八世紀にはクエーカーは「静寂主義」に特徴づけられることになる。彼らは世間一般のエチケットを無

にまとまった。福音派は聖書を重要視し、プログラムのある礼拝を行ない、アフリカや中南米で積極的に宣教活動を展開した。自由主義派はイギリスのクエーカーと連携し「内なる光」を重視するが、その内容については柔軟に考える。保守派は両派の中間形態である。三つのグループには大きな相違があるが、しかし、いくつかの共通点がある。著者はクエーカーが今後「神のために現在も働く特異なグループであり続ける」と結ぶ。評者は、著者がクエーカーの独自性を強調し過ぎているようにも感じる。「変容体験」とはプロテスタント主流派のいう「回心体験」ではないのか。「啓示」は「聖霊の導き」ではないのか。翻訳は正確で丁寧であり、巧みな意識も見られる。例えば訳者は「聖霊に満たされて語る」ことを「感話」と訳すが、原語は speech & message であり味気ない。見事な訳語の選択である。

(やまと・とおる) 神奈川大学名誉教授

新井明選集 [全三巻]  
第一巻  
**ミルトン研究**

新井 明 著

日本女子大学名誉教授 / 今井館教友会前理事長

●A5判上製 435頁  
本体5,000円+税

イギリス17世紀の詩人ミルトンは宗教と文芸に身を挺した人物であり、日本の近代化の過程に、すくなく影響を及ぼした。日本を代表するミルトン研究者としての著者が発表した論考を中心に編まれている。

第二巻と第三巻には、無教会を中心とした人物論、講演、聖書講義、などが収められる予定。

ISBN978-4-86376-066-0

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402  
☎ 03-3238-7678 FAX 03-3238-7638

現代イラクのキリスト者の苦難と、それを取巻く世界の教会

スハ・ラツサム著  
浜島 敏訳

『イラクのキリスト教』別冊  
十字架の道を辿る



中田智之

高校生の頃、歴史の教科書に中世の中東、サラセン帝国のことが少し書かれていたことを思い出しました。教師が、中世時代のイスラムについて、ヨーロッパの国々と比べると、自然科学に関しても比較的自由に観察や研究が進められていたと説明していたように記憶しています。かつての西方ローマでは民衆に対して、魔女狩りのような偏狭な風潮があたかも正しいかのように指導がされていたようですが、中東でのイスラム思想には、自然科学と向き合って偏見なしに受け入れ、未知の世界への好奇心を肯定的に受け止める大らかさがあったように思われます。ところが現在の一部の中東イスラム運動はかなりの急進的思想と行動を伴って、あまり精神的な豊かさ、広さを感じさせません。

この『十字架の道を辿る』は、二千年にわたる中東イラクでのキリスト教の歴史を紹介した前著『イラクのキリスト教』に続く別冊として、二〇〇三年以降の困難に満ちたイラクのキリスト教会を、十字架の苦しみを負う者の一人として著者のスハ・ラツサム氏が綴っています。

圧迫が激しさを増し、愛する祖国イラクを脱出しなければならぬ信仰者の群れも生まれます。それに対して、神父や教会責任者たちが如何に祈り、対処し避難していったか。著者の冷静に時間を追う手法により、イラクのキリスト者の苦悩が自ずと身に迫ってきます。

また、そのような現状に際して、世界の正教会、カトリック教会、聖公会が救済の宣言を採択し、救援活動も国際的に組織されていく様子が記録されています。そしてフランス、イタリヤ、ドイツ、ベルギーなどの教会の連帯、アメリカや国連とその機関などの動きも生まれてくるのです。しかし、未熟な教会やその他の外部からの発言など、わたしたちが大いに考えさせられる記録も記述されています。

昨年イラクのISの崩壊が報道されましたが、まだ、回復のために多くの苦難が続くでしょう。著者たちの願いは爆撃と砲弾で破壊された祖国が、秩序と宗教的共助と平和を取り戻し、

著者は医師でありイラク生まれのキリスト教徒です。著者の冷静な報告は非常に分かり易く、文化的背景が日本人には少し分かりにくいところは、訳者の脚注が理解を助けてくれます。この脚注が、西欧思考に慣れている日本人にも、東方文明への理解と洞察を深め、さらに、イスラム文化に対する理解を深めてくれます。

二〇〇〇年頃からアルカイダの活動を機に、複雑なイスラム過激派が入り乱れての武力的自己主張が深刻化します。二〇一〇年頃からはIS(イスラム国)が中東において活動を激化させました。同時に何世紀にもわたって築かれてきたイラクにおける、イスラム教徒とキリスト教徒との共存関係は崩壊の一途を辿るのです。キリスト教徒への迫害は、日を追うごとにエスカレート。信仰のゆえに、強奪、拷問、強姦などが行われ、迫害の対象になり、礼拝の場所も攻撃され、宗教指導者たちも拉致、拷問され、ときには殺害されるという絶え間ない迫害に苦しめられています。年々と増し加わるイラクの教会への迫害の中にあって、迫り来る命の危険は相当なものであったでしょう。

医療と教育、家庭と地域社会を回復することです。日本においてはあまりにも現地の情報が不足しています。日本の教会の規模が小さいとはいえ、どう彼の地の教会と連帯できるかも模索していくべきでしょう。幸いにも訳者の浜島氏がICIN(イラク・キリスト教徒救援協会)を通じた支援・寄付の窓口となっております。

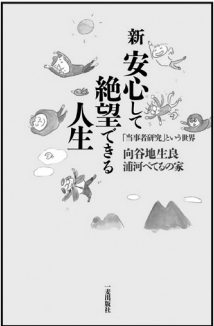
評者の小さな経験では、アマゾンでブラジル人の小学校を設立し始めたとき、日本のキリスト者学生会と日本ブラジル学生交流協会の数人の学生が、毎年継続的に手伝いに来てくれたことが大きな原動力になりました。小さな交流が日本と中東の彼を地を繋ぐ良い経験となるのではないかと思います。

(なかだ・ともゆきIIブラジル宣教師)  
(四六判・二〇八頁・本体一七〇〇円+税・キリスト新聞社)



新・安心して絶望できる人生

「当事者研究」という世界  
向谷地生良+浦河べてるの家  
Ikuyoshi Mukaiyachi URAKAWA-bethel



今日も明日も明後日も  
問題だらけの中で、  
自分で自分の  
助けかたを見つける。

吉田知那美選手との対談付

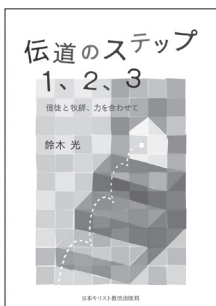
四六判変型  
定価【本体1,200+税】円  
ISBN978-4-86325-113-7



株式会社 一麦出版社  
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10  
TEL (011) 578-5888  
http://www.ichibaku.co.jp  
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

「面倒見の良い先輩牧師」のような期待の手引き  
鈴木 光 著

## 伝道のステップ1、2、3 信徒と牧師、力を合わせて



深谷与那人

「さりげなく準備会というところで礼拝の後に面会をしてね、洗礼を授けたらいいよ」。すでに召された先輩牧師が、私にアドバイス(?)してくださったことがある。本当にそれで良いの? と、心のどこかで思いつつ、机上と現場の違いを感じた経験であった。

本書は、伝道の本。新来会者を招き、求道者を募り、受洗に至らせるための本である。その著者のスタイルが、ひとつの例証として紹介されている。本来は交わりが苦手なタイプと自分を紹介しているところに、親近感と安心感を感じる。志高く、献身して牧師と呼ばれるつとめに身を置いたものの、伝道ということに、行き詰まりや、やりにくさを感じている人に、本書をお勧めしたい。

実際に伝道活動に従事すると、あれっ? どうしたら良いんだろう? と思うところにおつかる。たとえば、入門講座、準備会で、どんなテキストを使うか、どれくらいの期間するものか、それがこの教会のスタイルに合っているのかどうか、などである。自分の信仰を育てた「母教会」のスタイルと、遣わさ

れた教会の伝統の違いがあると、伝道者は戸惑う。冒頭のエピソードは、そんな中で体験であったのだが。

この書物は伝道の書籍にありがちな「これで成功する!」という本ではない。あくまで、三十年代後半、牧会一五年ほどの著者自身が、こうして伝道を確立させた、ということの後輩たちの参考にしてもらえたら、というスタンスである。この本の特徴は、その表紙に「信徒と牧師、力を合わせて」とあるように、既存の教会の形態や信徒の活動と、牧師の伝道のビジョンと願いが、衝突や分裂に至らず、良い循環が生み出されるよう(ちよつとまわりくどいくらいに)丁寧に考察が述べられている点である。著者は、開拓伝道ではなく、既存の教会に招聘された牧師であり、多くの牧師にとって参考にしやすすいだろう。教会の伝道を考えるために、信徒と牧師が共に読み進めていく読書会などのテキストにも、本書は適している。

例えば、どこの教会でも取り入れられている「特別礼拝」「特別集会・講演会」などが、伝道という枠組みの中で、有効に活用されるための見極めのポイントが述べられている。地域的な

小さな集まり(従来家庭集会と呼ばれるものか)の有効性、また逆に注意点なども取り上げられている。さらにはこうした集会でリーダーをつとめる信徒のための具体的な手引きも紹介されている。

牧師が個人で行う伝道については、求道者の特性(信仰の中心にズバツと切り込みたいタイプか、それともじっくり時間をかけて聖書に取り組みたいタイプか)によって、ふたつの異なったテキストを用意して、どちらかを用いることが紹介されている。はじめからそうであったのではなく、幅広い年齢層の求道者と準備会をするなかで、その必要に迫られてこのスタイルになったのだと言う。壁を乗り越える努力と工夫を続ける、著者の伝道への姿勢が感じられる。

著者が、伝道のいろいろな状況で用いるために自ら作っている資料(礼拝学習会資料、洗礼についての学びの資料、洗礼準備会資料ほか)が掲載されているのもありがたい。一人の日本

の教会の牧師が、このように伝道に取り組んでいる、というモデルを示し、後に続く同労者を励ましたいという思いであろう。教会の現場に遣わされて一〇年未満の牧師たちは、驚くほどのプレッシャーとストレス、そして失望を、顔に出せずに抱えている。面倒見の良い先輩牧師がいれば、そのような悩みや良きアドバイザートになってくれるだろう。それでも、一種の物足りなさを感じる時があるかもしれない。もし、その悩みが牧師としての伝道の行き詰まりであるなら、霧は色濃い。しかしそんな時、本書を手に入れば、きつと、伝道の躰きに慰めと励ましを得るだろう。そしてオリジナルの「自分の伝道のステップ1、2、3」を生み出そうというモチベーションを、高められることだろう。

(ふかや・よなど日本基督教団京都復興教会牧師)  
(A5判・二二八頁・本体一四〇〇円+税・日本キリスト教団出版局)

神について語れるのか  
古今東西 二千数百年の挑戦を収集



## 神についていかに語りうるか プロテイノスからウイトゲンシュタインまで W・シュスラー 編 芦名定道 監訳

神学・哲学の根源的テーマに取り組んだ、古代の哲学者や教父から、トマス・アクィナス、シュライアマハー、現代の神学者・哲学者、東洋思想まで、古今東西の議論を紹介する。A5判・490頁・7020円

エレミヤの言葉を現代に甦らせる



## エレミヤ書を読む 悲嘆からのちへ

左近豊  
祖国ユダ王国の崩壊期に民と悲しみを共にし、未来の希望を指し示した預言者エレミヤ。その言葉をこの暗い時代にこそ聴き直す。  
四六判・136頁・1512円

日本キリスト教団出版局  
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457  
E-mail eigyou@bp.ucci.or.jp (価格8%税込)  
<http://bp-uccj.jp>

通り一遍の聖書の読み方から立ち止まらせてくれる絵本

ピーター・スピアー作  
小宮 由 訳

## 魚にのまれたヨナのおはなし



友野富美子

敬愛するピーター・スピアーさま

素敵な絵本をありがとうございます。『魚にのまれたヨナのおはなし』読ませていただきました。一読者として感謝いたします。今度の絵本も期待通り。ペンと水彩絵具で細かく書き込まれた絵とよく練られた文章で、最後までじっくり読ませていただきました。私、さっそく教会の礼拝の中で読みましたよ。あなたの絵や文章は、「さあさあ、急がずページをめくっていつてごらん」というふうに手を引いて、私たちを物語の世界へ連れていってくれます。

あなたはイラストレーターとしてご本の絵を百冊以上も描かれていますし、絵も文章もあなたが書いた絵本は何十冊も出版されています。日本でも教会学校に携わっている人たちは『アアのはこ船』をご覧になったことがあるはず。絵を観れば、「ああ、これね」と思われるのではないかしら。

今回の『魚にのまれたヨナのおはなし』は、まず表紙の絵にじっくりさせられました。大きな魚がまんまるい目をぎよろりと剥いていて、その先には両手を上げた小さなヨナの姿が。魚

の口は今にもヨナを飲み込みそうに大きく開いています。水が

魚の口に流れ込んで、ヨナもいっしょに吸い込まれそう。海面には船乗りたちが捨てた積み荷が。船乗りたちの表情は小さすぎて見えませんが、皆それぞれに騒ぎつつ、ヨナの行く末を案じているのがわかります。気の弱い私などは、「この絵、ちょっとこわいな」と思うほどです。ああ、それなのに。よくよく見ると、ヨナは困ったような顔をしているだけなのです。「ああ、飲まれちゃうのか、俺」というように。

これが、あなたの作品のおもしろくもすごいところ！ どうしてこんな顔をさせたのですか？ あなたなら怯えたようにも、抵抗しているようにも描くことはできるでしょう。それなのに、「飲まれちゃうのか、俺」ですよ。

これがあなたの「ヨナ書」の読み方なのだと思います。あなたのヨナは、いろいろなことが自分の思う通りにいかなくても、翻弄されているのだけれど、どこか他人事のように滑稽なの。特に絵が。細かいところまでよく見て、と読者の方にお勧めしたいです。通り一遍の読み方でわかったような気になってしま

て、そういうところがすばらしい。ところで、ヨナ書二章の祈りの場面がかなりあっさりしているのはどうしてですか？ 救いに関する大切なところだと思のですが。あなたは昨年天に帰ってしまったから、お尋ねすることはできません。

物語の後に、ヨナの逃亡路の地図やタルシシュの船の絵、時代背景や解説が載せられていて、ヨナのお話を読む助けとなっているのもうれしいです。教会学校や子どもたちだけでなく、おとなだってこの絵本はたっぷりたのしめます。あなたの絵本は甘ったるくない。たぶん、手に取った人はだれでもじっくり読むのではないかしら。そして大切に扱って、人にも勧めるのではないかしら。

私も何回も読みます。ありがとうございます。翻訳された小宮さんにも出版のお仕事をされた方にも感謝をこめて。

(ともの・ふみこ) 日本基督教団経緯緑岡教会副牧師  
(A4変型・四〇頁・本体一五〇〇円＋税 日本キリスト教団出版局)

旧約聖書の「ヨナ書」が  
色鮮やかで躍動感あふ  
れる絵本になりました！

## 魚にのまれたヨナのおはなし

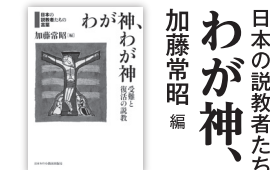


ピーター・スピアー 作  
小宮 由 訳

ヨナは神さまの命令から逃げ出した先で魚にのみこまれてしまい…。預言者ヨナの不思議で壮大な物語を、繊細なタッチで描いた聖書絵本。解説資料「ヨナの旅」付き。

A4判変型・40頁・1,620円

受難と復活の名説教15編



日本の説教者たちの言葉  
加藤常昭 編  
左近淑、竹森満佐一、植村正久など、日本を代表する説教者15人による受難と復活の説教を収録し、詳細な解説を付す。  
四六判・2600頁・27000円

日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457  
E-mail eigyoku@bp.uccj.or.jp 《価格8%税込》

http://bp-uccj.jp

聖書とは何か、翻訳とはどうあるべきか  
加藤哲平著

## ヒエロニュムスの聖書翻訳



小高 毅

近年、邦訳刊行された聖書としては、一九八七年の『新共同訳』の後、一九九五年から二〇〇四年にかけて分冊で岩波書店版が刊行され（二〇〇四―五年に五分冊で合本刊行）、二〇一一年にフランシスコ会聖書研究所訳注により『聖書 原文校訂による口語訳』（一九五八―二〇〇二年刊の分冊を合本化）の刊行、さらに新約聖書のみではあるが本田哲郎、田川建三らの個人訳があり、岩波文庫や学術文庫に文語訳が復刻刊行されている。また古代の旧約聖書ギリシア語訳である『七十人訳』の邦訳刊行が進んでおり、さらに本年の年末には『聖書協会共同訳』の出版が予定されている。

これはキリスト者が人口の1%にも満たない国にとつて驚嘆すべきことではなからうか。ではこれらの諸訳は聖書の理解にいかなる役割をはたしうるのであろうか。敢えてその一つを挙げて見ると、複数の翻訳を比較検討しながら読み進めるというものである。このような読書法は、古代のアウグスティヌスも推奨している。彼は『キリスト教の教え』の中で、「聖書の読者は逐語訳された翻訳を複数持つことによつて、言葉よりも意

味に従つことを選んだ翻訳者たちの、度を越した自由や誤りを正すことができると主張している」と本書の著者は指摘する（一七二頁）。ここで重視されるのは七十人訳であった。

つまり、起点テキストの七十人訳ギリシア語テキストと比較することでラテン語訳の意味を特定することができるのである。ということは、アウグスティヌスが想定していた読者は、起点テキストと逐語訳されたテキストとを一言一句比較できるほどのレベルの者たちであった。比較できるほどの原語の知識を有するとなると、ごく限られた者になつてしまふだろう。アウグスティヌスその人が自分のギリシア語に関する知識の低さを告白している。さらに旧約聖書の中心的言語であるヘブライ語となると、アウグスティヌスを含めて、「おそらく当時はヒエロニュムス以上にヘブライ語を正しく読むことができる者など、教会にはほとんどいかなかったことだろう」（二七四頁）。それでも問題とならなかつたのみならず、原語のヘブライ語からの翻訳が必要とされなかつたのは、当時の教会にとつて「七十人訳」は「聖霊によつて靈感を受けたテキストであるから」のみ

ならず、まさに「ギリシア語で書かれた」もの（二七五頁）であり、ラテン語の翻訳テキストを比較しつつ読むことができるからでもあった。それにもかかわらず、ヒエロニュムスは決然とヘブライ語からのラテン語訳に挑んだのである。アウグスティヌスの巨大な影響下にある西方キリスト教はその聖書釈義を高く評価し、それに倣ってきたが、起点テキストに関してはヒエロニュムスに倣つてヘブライ語版を採択しているのは興味深いことである。ウルガータ訳を正典聖書とするローマ・カトリック教会は、典礼の刷新によつて各国の言語が用いられるようになったことからヘブライ語版を底本とした翻訳の聖書が用いられている。ウルガータ版とヘブライ語からの現代語訳とは、時としてずれがあるが、今のところ問題とされてはいない。もつともウルガータ版の現代語訳は刊行されてもいないのだが。ヒエロニュムスというと、「かれの短気で、がみがみ言う性格、かれの嘲弄癖がかれに敵をつくつた。敵に頬を差し出すこ

とは、かれの意にかなうことではなく、かれは利子を付けて殴り返した。皮肉な所見によつて、相手を突き刺すのがうまくゆくと、かれは安心したようである」（アマン『教父たち』）家入敏光訳、二四四―五頁）といった言葉を連想してしまふが、本書で浮き彫りにされるのはラテン語、ギリシア語、ヘブライ語の三つの言語に堪能な古典学者・聖書学者としての姿である。この書がきっかけとなり、あらためて聖書とは何か、聖書の翻訳はどうあるべきものなのか考えさせられるのでなからうか。教父とはいえ、取り上げられることの少ない聖書学者の草分けともいえるヒエロニュムスを知る格好の書が刊行されたことはまことに嬉しい次第である。

（おだか・たけし）フランシスコ会士・カトリック司祭  
（A5判・三六四頁・本体五二〇〇円＋税・教文館）



http://shop-kyobunkwan.com/



## A・E・マクグラス 本多峰子訳 ● A5判・734頁・本体7,200円

# 旧約新約聖書ガイド

創世記からヨハネの黙示録まで

聖書の言葉に生きる神学者による聖書の手引きである。優れた、豊かな、そして確かな二冊である。深井智朗氏（東洋英和女学院院長）推薦！

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1  
TEL 03-3561-5549  
呈 内容見本・図書目録●価格は税別



その人らしく生きる力を大切にするために  
古荘純一著

## 発達障害サポート入門 幼児から社会人まで



大澤 宣

以前、テレビのドラマでこういう言葉を聞いた。「できないことを探してよくよするより、できることを探してワクワクするほうがいいじゃないか」。

その頃、ある子どもと出会い、その思いを強くさせられていた。それまで、私はこの子どもと言葉を交わせないでいた。これくらいの歳になったら、こういうことができるはずではないか、こういうことができて当然だ。そう考えると、この子どもはできないことはかりだった。特に、他の子どもたちが庭にいると、ひとりで部屋にいるし、他の人たちが部屋に入ってくる、ひとりで庭に飛び出してしまふ。

そのようなある時、この子どもが庭にいて、プランターを見ながら、突然、こう言った。「まあ、きれいなお花畑」。私はこの子の言葉を聞いたことがうれしかった。

それから、この子どもは依然として、できないことは多かった。言葉を交わすことも難しかったが、できないことを探してよくよするより、できることを探してワクワクしようと思っただけだった。

発達障害であることを指摘されたという人がいた。その人は、これまでの生活で、自覚はなかったが、集団行動が苦手だったりした。

すべての「しょうがい」が、それを「障害」と感じさせないような世の中が変わっていくことができれば素晴らしいのだが、現実にはなかなかそういかない。

発達障害の「診断」は「レッテル貼り」ではなく、眼の前にいる「この人」の声を聴いて、その人が「必要としている支援を考える」上で必要なものなのだろう。

本書では、発達障害の判断の難しさと共に、自閉スペクトラム症、注意欠陥多動性障害、学習障害、発達性協調運動障害などの説明がなされる。そして、特に興味深かったのは、各年代別の支援の実例が語られていることだった。

幼児の例だが、自閉スペクトラム症の場合は睡眠障害のあることが多く、夜中に目覚めて興奮するなど、家族が疲弊するこ

この子どもと、今は交流はないが、どのように生きているかと思わされる。ワクワクしながら、いきいきと生きていることを願っているが、もしかすると生きにくさを感じながら毎日を送っているのかもしれない。

古荘純一さんの言葉から、子どもたちは誰もが未熟な存在で、どの子どももみんな不注意で多動であるということを示された。脳のアウトプットの結果として、不注意、多動な行動をとってしまふ子どもを、いたずらに叱責することで、自信をなくさせてはいけないということを教えられた。

また、「発達障害の子どもは、身体の不自由さではなく、『発想や行動の自由度の高い子ども』と言うことができる」(九五頁)という言葉にも思いを新たにされた。だからこそ、生きる土台を作る幼児期には、多数の人に合わせるための指導ではなく、子どもがその人らしく生きる力を大切にしなければならぬだろう。

新聞で読んだのだが、自分は発達障害だとは気づいていなかったけれども、子どものことを相談していく中で、自分自身が多が多いそうだと。そのようなとき、診断を受けて、適切な薬を用いることも有効だといわれる。そのようにして、生活習慣を整えることで、家族も安心して対応できるようにする。年齢がすすむにつれて、進学、就職など、それぞれ新しい課題に会うっていくことになるので、切れ目のない支援を受けられるようにすることが大切なのだろう。

昨今、「教育」の名のもとに行われる子どもたちへの虐待のニュースが溢れている。子どもにも有害なことをする虐待。子どもにも必要ものを提供しないネグレクト。これらは、発達障害の子どもに対してだけでなく、すべての子どもに対して、あってはならないことなのだと思う。

(おおざわ・ひろむ) 日本基督教団弓町本郷教会牧師  
(四六判・二二〇頁・本体一三〇〇円+税・教文館)

## 廣瀬 薫 (東京キリスト教学園理事長) 『羽仁もと子著作集』『信仰篇』5



自由学園の目指す「真の自由人」への道  
高橋和也推薦! (自由学園園長)

廣瀬薫先生に自由学園のイースター、クリスマス礼拝の司式をお願いするようになって以来今年で15年目。その時々力強いメッセージに、私たちの魂が奮い起こされ信仰が養われてきたことを感じて感謝の思いは尽きません。羽仁もと子の思想と生涯が、一貫して福音的な聖書理解を熱源とする信仰の上に立たされたものであることを明らかにされました。自由学園の立つべき土台をいかに守り、

- シリーズ全12巻発行予定 各巻一、〇〇〇円 \*絶賛発売中!
- シリーズ1 著作集第1巻 真理のなごみ 赤坂書局のなごみ (創作) 既刊
- シリーズ2 著作集第2巻 真理のなごみ 赤坂書局のなごみ (創作) 既刊
- シリーズ3 著作集第3巻 友への手紙 友への手紙 (創作) 既刊
- シリーズ4 著作集第4巻 友への手紙 友への手紙 (創作) 既刊
- シリーズ5 著作集第5巻 自由・協力・愛の心 (創作) 既刊
- シリーズ6 著作集第6巻 思想しつゝ生活しつゝ (中) 既刊
- シリーズ7 著作集第7巻 思想しつゝ生活しつゝ (下) 既刊
- シリーズ8 著作集第8巻 信仰篇 1 既刊
- シリーズ9 著作集第9巻 信仰篇 2 既刊
- シリーズ10 著作集第10巻 信仰篇 3 既刊
- シリーズ11 著作集第11巻 信仰篇 4 既刊
- シリーズ12 著作集第12巻 信仰篇 5 既刊 新刊

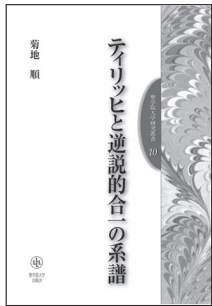
株式会社ヨベル YOBEL Inc.  
お問合せは info@yobel.co.jp  
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1  
TEL03(3818)4851 (本体税別表示)  
\*自費出版の専門出版社\*資料・星

テイリツヒを「逆説的合一の系譜」に位置づける

菊地 順著

# テイリツヒと逆説的合一の系譜

聖学院大学研究叢書10



安酸敏眞

テイリツヒという神学者は、さまざま「境界」上において自己の思想形成を成し遂げた思想家であって、狭い伝統的神学の枠に収まりきらないだけでなく、あらゆるもの（世俗的なものを含む）を自分の鑄型に流し込んで表現化する卓越した技量も身につけていたので、その全体像を余すところなく正確に把握するのは容易な業ではない。かつて匿名定道がそのような困難な課題に取り組み、『テイリツヒと弁証神学の挑戦』（創文社、一九九五年）によって刮目すべき里程碑を立てたが、匿名より一歳年長の本書の著者は、独自の神学的問題関心からスタートし、四半世紀に及ぶたゆまぬ読解作業を通じて、それに並び立つ重厚で味わい深いテイリツヒ研究書を公刊してくれた。著者は二十世紀を代表する神学的巨匠の思想の襞に分け入って、その根本的特質を独自の切り口で見事に炙り出してみせる。その手さばきは著者の人柄に似て、控え目にして精緻、堅実にして周到である。各章節の論述は、テイリツヒに馴染んでいる読者にとっても、再読・再考を促す創見を随所に含んでいる。

全体は三部から構成されており、第一部「テイリツヒ神学の

特質」では、「テイリツヒ神学と『聖なるもの』（第一章）、『弁証神学の理念』（第二章）、『弁証神学の神学の構造』（第三章）、「実存主義的特質」（第四章）という章立てのもとに、テイリツヒ神学の根本特質が多角的に描き出される。第二部「テイリツヒ神学と逆説的合一の思想」では、「初期テイリツヒにおける二つの原理と総合への道」（第五章）、「信仰義認論（一）——その背景と思想」（第六章）、「信仰義認論（二）——恩寵としてのプロテスタント原理」（第七章）、「認識における恩寵——存在論的認識の優位」（第八章）という順序で、初期テイリツヒによるシェリング受容、テイリツヒの信仰義認論、彼のプロテスタントイデオロギイ論、そして彼の存在論的認識の問題などが鋭く分析される。第三部「テイリツヒ神学と逆説的合一の系譜」では、それまでの論考の成果を踏まえて、「テイリツヒとアウグスティヌス——受動的逆説と能動的逆説」（第9章）、「テイリツヒとルター——神秘主義をめぐって」（第10章）、「テイリツヒとフランシスカニスム——〈coincidentia oppositorum〉をめぐって」（第11章）というテーマが論じら

れる。そして終論では、テイリツヒ神学についての総括的な検証・批判・評価がなされる。

浩瀚な書物であるので、限られた紙面で個々の点を論評するのは困難であるが、本書の一番の魅力は、著者がテイリツヒの豊かな思想をその実存的生から説明すべく、最大限の知的誠実さを発揮していることと、その神学思想全体を「アウグスティヌスのフランシスコ的伝統」に関係づけることによって、その核心と思しき「逆説的合一の思想」に学問的な光を照射していることである。これによって、神学者としてのテイリツヒの業績を、キリスト教思想史全体の中に位置づけて考察する有力な視座が与えられた、と言ってもよからう。

あえて不満な点を挙げれば、「逆説的合一の系譜」を扱っている第三部が、国内の権威的研究者の二次文献にほぼ全面的に依拠していることである。第一部と第二部では二次文献に頼らず、専ら一次資料の読解に基づく議論を展開してきた著者だけ

に、この点では物足らなさが残る。しかしこれだけ大きな思想的系譜を扱うとなると、ある面これも仕方なからう。ないものねだりのついでに、巻末に索引を付けてほしかった。後進の学徒にとって、必読の研究書となること請け合いなので、簡便な検索を可能にする索引の欠如は惜しまれてならない。

なお、気がついた範囲での誤字を指摘しておけば、一〇三頁一七行目の「無制限的なものの経験」は「無制約的なものの経験」、三五九頁九行目の「合一則交わりの神秘主義」は「合一即交わりの神秘主義」の間違いであらう。

そろそろ関連文献を処分しようとしていた矢先に、本書によって再度テイリツヒに魅了されてしまった。最後に、かくも優れた書物を上梓された著者に、深い敬意を表する次第である。

（やすかた・としまさ＝北海学園大学学長）  
（A5判・四六〇頁・本体八五〇〇円＋税・聖学院大学出版会）

教会と国家 信仰と教育、女性と社会——生涯をかけて綴った初の論文集！

湊晶子著（広島女学院院長・学長）

# 初代教会と現代

A5判上製 五二六頁 三、五五〇円 9月30日発売！

日本における女子教育を力強く牽引してきた著者の学問の出発点となった、ローマ帝政下における初期キリスト教研究を第一部に集成。転じて、国際化時代におけるリベラル・アーツの大切さから、女性の自立と社会参画への道をキリスト教信仰の立場から追求した第二部、第三部構成の記念碑的著作。

黒川知文著（中央学院大学教授／愛知教育大学名誉教授）

# ユダヤ人の歴史と思想

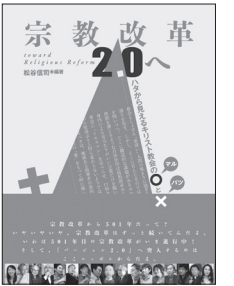
ユダヤ人の歴史と思想

ヘレニズム期からキリスト教によるヨーロッパに代表される現代まで、世界中で連続と行われてきたユダヤ人迫害。キリスト教世界の只中からなぜかくも苛烈な反ユダヤ主義が生じたのか。その歴史を真直ぐに見つめつつ、この災禍を通して形成されていったユダヤ人固有の諸思想までを詳説する。

株式会社ヨベル YOBEL Inc.  
お問合せは info@yobel.co.jp  
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1  
TEL03(3818)4851（本体税別表示）  
\*自費出版の専門出版社\*資料・星

全クリスチャン必読の本・キリスト教は変わらざるを得ない  
松谷信司編著

宗教改革20へ  
マルバツ  
ハタから見えるキリスト教会の〇と×



富田正樹

クリスチャン必読の書と感じました。特に閉塞状態の日本社会において、同じく閉塞状態に陥っている日本のキリスト教会で、多少なりとも未来に不安を抱いている人は、必ず読んでおいたほうがよい本です。

この本はキリスト新聞社の雑誌『Ministry』の「ハタから見えたキリスト教」というコーナーの集大成です。

キリスト教を愛してやまないけれども教会組織のタコ壺の中にまでは入らず、しかし限りなくキリスト教に近いところで、キリスト教に愛を込めて見詰め続けている方々による、「今の」キリスト教についての忌憚らないコメントが満載されています。

その助言者の数、実に一八名。その中には加賀乙彦さん、辛淑玉さん、安彦良和さん、里中満智子さん、塚本晋也さん、宮台真司さん、アグネス・チャンさん、阿刀田高さん……等々まさに錚々たる顔ぶれです。

日本におけるキリスト教の宣教が条件付きであれ解禁されてから約一五〇年、戦争の苦しみを経て、曲がりなりにも宣教が

談でした。教えられることが多く、メモを取りながらじっくりと読まずにはおれませんでした。

司会を務めた牧師の川上盾さんの問題意識も、これまでの歴史におけるキリスト教の位置づけとそれに対する世界からの評価、さらにはこれからのキリスト教の在り方を探る姿勢に満ち、大いに共感させられました。川上牧師の問いは、我々キリスト者が世間から日常的に（時には不躰に）投げつけられている問いそのものなのです。その我々の切なる問いに、的確に答えてくださる内田さん、釈さんのコメントは、非常に示唆に富むものです。

ただ、この方々のコメントを本当に活かそうとすると、例えば日本宣教の神学は大幅に見直しを迫られるでしょう。例えば日本人の宗教的特徴である「習合」をどう捉えるかだけでも、教会は上へ下への大騒ぎになること必定です。教会とは何なのか、洗礼とは何なのか、信徒の交わりとは何なのか。平易な言葉によってではありますが、そういったことに関する既成概念

自由になってから約七〇年。それなりの時間をかけ、努力を傾けてきたものの、この国のクリスチャン人口は思うように伸びません。「数の問題ではない」とか「神は隠れた所で隠れたわざを見ておられる」という言葉を、どこか私たちは自らの徒労に対する言い訳のように使ってはいないでしょうか。また、キリスト教「について」知ることで、キリスト教「を」知ることは違うとか、「伝道」とは世に媚びることではないなど云々。そうやって、せっかくキリスト教に関心を持ってくださったっている人々に、かえって垣根を高くして遠ざけてしまっているのではないのでしょうか。ごく少数の単発的な成功例は除いて、これまでのこの国でのキリスト教の宣教は、総体的には失敗していると認めるべきではないでしょうか。そして、だからこそ、我々は自分たちがどのように見透かされ、分析され、評価されているか、その貴重な声に耳を傾けるべきではないでしょうか。

本書のどの部分も刺激的な提言の数々が満ちていますが、筆者が心を動かされたのは、終盤の内田樹さんと釈徹宗さんの対

を根本的に覆すような問題提起がサラリと語られています。

こういった「ハタから見えた」人びとのコメントは、必ずしもキリスト教への否定的な批判や不安を高めるような指摘だけではありません。キリスト教の新たな希望や可能性に大いに目を開かせてくれる言葉がたくさん散りばめられています。しかし、教会側にも大胆な改革や発想の転換が必要です。既存の神学や慣習・前例に配慮していると、日本のキリスト教会の未来はありません。決別です。血を流す苦しみです。だからこそ「宗教改革」と呼ばざるを得ないのです。

宣教の未来、キリスト教教育の未来について、大きなヒントを与えてくれる書物だと信じ、本書を強くオススメします。

(とみた・まさき)同志社香里中学校高等学校聖書科教員、日本キリスト教団徳島北教会牧師

(四六変形判・二〇〇頁・本体一六〇〇円十税・ころから)



キリスト者への問い

あなたは天をたれと言ふか

松谷好明

Yoshiaki Matsutani



いま、キリスト者として考えなければならないこと

信仰告白的に生きるとは  
どういうことかを真摯に問う。  
キリスト者として  
日本人として生きる上での  
重要な指針を  
与えてくれるであろう。

四六判変型

定価【本体 1,700 +税】円  
ISBN978-4-86325-112-0



株式会社 一麦出版社  
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10  
TEL (011) 578-5888  
<http://www.ichibaku.co.jp>  
携帯 [mobile.ichibaku.co.jp](http://mobile.ichibaku.co.jp)

信仰の体幹を鍛えるために  
近藤勝彦著

## 十字架のキリスト以外に福音はない ガラテヤの信徒への手紙による説教



高橋潤

本書は、著者が銀座教会の協力牧師として語った説教集です。求道者、信仰者、説教者が自分自身を訓練する方法は、聖書を読み、祈ることと共に説教を読むことが大切です。運動選手が体幹を鍛えることを重要視していますが、信仰の体幹を鍛えるためにぜひ、毎日一編ずつ本書の説教を読んで味わうことをお勧めします。「戦いの書」と呼ばれるガラテヤの信徒への手紙を通して、何を信じているのか、与えられた信仰が人生をどのように支えているのか、著者の迫力ある言葉によって明確に示され、励まされ、信仰の内容が整理されます。読者は人間の言葉に動揺することなく神の言葉にしっかりと立つ者へと導かれます。

著者は、銀座教会長山信夫前牧師と神学校の同級生であり、神学生時代から今日まで、日本基督教団の全体教会が真のキリストの教会として立ち続けるために戦い続けてきた同志です。共に銀座教会に仕えつつ、同時に地域の教会、全国の教会のために目を配り、相談に乗り、多くの牧師と教会の危機を支えてこられました。著者は銀座教会における教会形成に深く関わり

つつ、同時に、全体教会に仕える献身的な働きを続けてこられたことは多くの人が知るところです。日本のキリスト教会、特に、教団紛争から現在に至る約半世紀の中で、聖書の御言葉に立ち続け、教会の土台を堅固にするために説教壇に立ち続け、一貫して聖書に忠実に語り続ける著者に与えられた神の言葉の一端が本書です。

具体的には、二〇一四年から二〇一六年にかけて主日礼拝で語られた二二の説教です。直接の会衆は、銀座教会に集まった方々ですが、著者の説教は、著者が第一に批評を求めた夫人はじめ、毎週の礼拝に熱心に集まる教会員だけでなく、全体教会に向かつて語られていると思われれます。本書の最初の説教「キリスト以外に福音はない」の冒頭において、「聖書は、時代を超えて、現代の教会に、また私たち誰に対しても語りかけています」(一二頁)と聖書の言葉の普遍性について語っています。であれば、神の言葉の解き明かしである説教は、聖書に忠実に語る時、自ずと聖書の普遍性に与って、その説教は全体教会に届く言葉になるのではないのでしょうか。

この説教が語られた時、銀座教会は創立一二五周年の前後を迎えていました。創立一二五周年記念事業を進めていました。五〇〇人礼拝を目標に掲げ、建物の改修工事等を計画実施してました。そのような中で語られた説教です。最初の説教は次の言葉で結ばれています。「キリストがいてくださることに満ち足りること」「キリストが御自分をわたしたちの罪のために献げてくださった、そのことだけによって私たちは救われています」「健康も仕事も、富も業績も、家族のことも友人のことも、日本のことも世界のこと、すべては神の恵みに応える捧げもの、神の栄えのためにささげる感謝の供えものです。それ以外では断じてあり得ない。この信仰の信念に立って、私たちの信仰の人生を歩んでいきたいと思えます」(二八頁)。この言葉は、銀座教会だけでなく、多くの方が私のために語られた言葉として受け止めることができる福音の根幹です。

ある会合の中で、著者が「妻の言葉に押し込まれて、教

義学の執筆を決意した」と語られていました。限りある命と与えられた時間の中で完成するかどうか分からないが取り組むことにしたと語られていました。本書の「あとがき」に記されているように、著者は神学者と説教者の使命を「説教しながら神学し、神学しながら説教する」(二八〇頁)という姿勢を貫いて両立しておられます。著者の説教集を読むと著者の難解な神学書を読みたくなくなります。そしてその神学書を読むと説教集を読みたくなくなります。

現在私は、毎月銀座教会の講壇で近藤勝彦協力牧師の語る説教を一番近くで聞いています。熱が入ると小刻みに動く指を見ながら、その迫力に圧倒され、慰められ励まされ、神の国を見つめる恵みに与り、「安心しなさい」ではじまる祝福によって派遣されています。

(たかはし・じゅん 日本基督教団銀座教会牧師)  
(B6判・一八四頁・本体一七〇〇円+税・教文館)

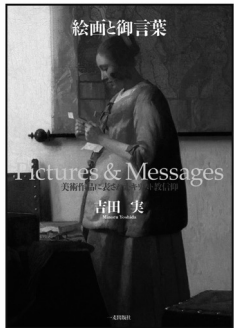


## 絵画と御言葉

美術作品に表されたキリスト教信仰

吉田実

Minoru Yoshida



「ミケランジェロ、レンブラント、ゴッホ、ルオー、たくさん有名な画家が聖書のワンシーンを描いています。さて彼らの人生や信仰は……興味深いエピソードがいっぱいの一冊です！」

教会音楽家 久米小百合さん推薦

A5判・上製

定価 [本体 3,200 + 税] 円  
ISBN978-4-86325-111-3



株式会社 一麦出版社

札幌市南区北ノ沢3丁目4-10  
TEL (011) 578-5888

http://www.ichibaku.co.jp  
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

神に出会って変えられた女性たちの物語

大嶋裕香著

## 神に愛された女性たち

西洋名画と読む聖書



岩田三枝子

日本をはじめ世界各地の教会や学校、諸集会で結婚や恋愛、子育て、信仰継承等々のセミナーを、時には夫である大嶋重徳氏（KGK総主事）とともに、また時には単独で行なう大嶋裕香氏による書き下ろしの一冊である。ちなみに、筆者の勤務大学でも毎年学生向けに「キリスト者の性・恋愛・結婚」の講義をしてくださり、毎回和やかな笑い声の絶えない大嶋氏の講義は学生にも好評である。書き下ろしとはいえ、毎月の締切日を定めて書きためていったという本書からは、人々との交わりを喜びとする著者の丁寧で暖かな人柄がそのまま溢れてくるようだ。本書全体を流れる気取りのない優しい語り口は、まるでコーヒーを片手にリラックスして著者と会話を楽しんでいるような気持ちにさせてくれる。

本書は、旧約聖書からエバやサラなど八人の女性、そして新約聖書からもエリサベツやイエスの母マリヤなど同じく八人の女性に焦点を当て、聖書の記述から忠実にその女性たちの生涯を辿りつつ、信仰の姿や神や人々との関係を描き出していく。著者は、本書に取り上げられている女性たちの姿を通して、人

間は褒められるべき特質と同時に、罪の性質の両面を兼ね備えていることを浮き彫りにする。そして、神はそのような罪深い人間を慈しみ深く、あわれみ深く愛される神であることを示す。女性たちに向けられた著者の視点は、「だから、こうでなければならぬ」という教訓めいたものではなく、「だから、私たちがまた『神に愛されている女性』なのだ」ということに気付かせてくれる。

著者は、聖書に登場する女性たちの姿を描くと同時に、神がどのようなお方かをも指し示す。本書の主人公は、旧約聖書・新約聖書に登場する一六人の女性であるだけではなく、真の主人公はそのような女性たちを愛される神である。読者は、本書を通して、聖書の女性たちと出会うとともに、神と出合い、また聖書の女性たちの歩みの中に自分自身の姿を見出すことによつて自分自身と出会う。

本書には、聖書の女性たちの解説に合わせて、著者自身の結婚や子育て、信仰生活のエピソードもふんだんに盛り込まれている。その中の一つを紹介したい。サラが神から新しい名前を

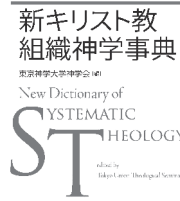
与えられたことから、著者自身も「裕香」という名前に、「ゆたかに祈る」という「新しい名前」の意味を見出したというエピソードがある。ふと気がつくと、私も読む手を止めて、自分の「新しい名前」をあれこれと思い巡らしていた。このような数々のエピソードを通して、読者は聖書の世界と自分自身とが隔たっているのではなく、自分たち自身もまた聖書と同じ世界に生きる存在であることを身近に感じさせてくれる。

本書のもう一つの特徴は、サブタイトルに「西洋名画と読む聖書」とあるように、本書に挿入された聖書の女性たちを描く絵画が、時を超えて、その世界に誘い込んでくれることである。要所要所に挿入されたレンブラントやエル・グレコなど著者自身の選定による一二点の名画に本書の中で出会う度に、思わずじっと見入ってしまう。絵画は私たちの想像を豊かに駆り立ててくれる助けであることを改めて感じつつ、西洋美術、日本美術、古典美術、現代美術など多彩なジャンルの美術館、博物館

巡りを楽しむという著者の思い入れが伝わってきて、自分も実物を見るために美術展に足を運びたくなる。絵画が聖書の世界と私たちの現代とを結ぶ役目を果たしてくる。

読者は本書を通して、聖書の世界・絵画の世界・現代という三つの時空をタイムマシンに乗っているかの如く自由に旅しながら、聖書の女性たちに出会い、神に出会い、自分自身に出会う至福の読書時間を味わう。

（いわた・みそ）東京基督教大学准教授  
（四六判・一六〇頁・本体一〇〇〇円＋税・教文館）



東京神学大学神学会編

●四六判・400頁・本体4,200円

## 新キリスト教組織神学事典

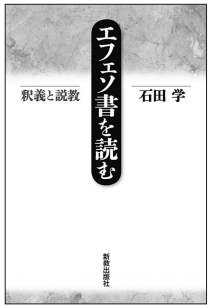
長年愛用されてきた事典の項目を見直し、すべて新たに書き下ろされた新版。スタンダードかつ最高水準の事典。

佐藤 優氏、平野克己氏、吉田 隆氏推薦！

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1  
TEL 03-3561-5549  
呈/図書目録 ●価格に税抜

新約学と説教との見事な結合  
石田 学 著

エフエソ書を読む  
積義と説教



藤原導夫

石田学牧師による『エフエソ書を読む』が出版された。興味を覚えたのはそのタイトルである。副題は「積義と説教」であり、本書の内容を推測できるものとなっている。本書には石田牧師が日本ナザレン教団小山教会の礼拝で語った説教とその準備作業としての積義の記録が収められている。説教集ならば「エフエソ書を読む」とか「エフエソ書に聞く」とかが自然ではないだろうか。

実はこのタイトルは石田牧師の聖書学的見識の反映であると言ってもよいであろう。エフエソ書の本文研究に基づき、それが「説教として語られた」というよりも「文書として読まれた」ということに着目し、一貫してその立場を取っておられるからである。

次の文章はそのことをよく示していると思われる。「エフエソ書は手紙というよりも説教であると定義つける説が強い。説教であるとするれば、やはり耳で聞いて理解することが前提である。しかし、エフエソ書は文章構成が長く、思想的に難しい。それらを判断すると、エフエソ書は手紙本来の目的を持たず、

かつ説教でもなく、むしろ教会指導者に宛てた教導的小論とみるのが自然である」(二一〜二二頁)。

そのような見解を保ちつつ、毎週巡って来る礼拝説教のための積義作業を休みなく続けておられるその「積義ノート」が本書には収められている。それは意外に簡潔である。本人も断っておられるが、忙しい牧師としての働きの中で積義作業をそれ以上拡大するのには限界がある、と。その意味では、多くの牧師にとって自分にも出来るかもしれないと思わせる、手の届きそうなところにある積義の記録であり、実践可能な一つの「モデル」がそこに提示されているとも言えるであろう。

評者が本書を手にとって好感を覚えたのは、何よりも堅実な積義に基づいた説教が一貫してなされているということである。しばしば積義を欠いた説教に遭遇することがある。しかしこの説教は、土台の上にしつかり建物がかまかれるように、積義という土台に説教という建物が見事に築かれている。聖書テキストに基づかない説教、聖書テキストを歪曲した説教などが散見される中であって、説教の基本に忠実な姿勢がうかがえる。その

意味で安心して聞くことのできる説教である。

説教の課題は「かつて、そこにおける」聖書のメッセージを「いま、ここにおける」状況下で新しくいのちあるものとして語り直すところにある。その意味では、確かに著者が牧会する小山教会の聞き手とそれを取り巻く現代社会に向け、この説教は語りかけられているということが見て取れる。聖書積義の提示レベルで終始することなく、聞き手とその生活する社会を視野に入れ、まさにそこに向けて積義から聞き取ったメッセージが的確に語られている。

「神をほめたたえることができる」とは！(一章1〜6節)を見てみよう。積義作業では神の選びは恵みであるが人の応答も必要であることが導き出されていく。説教では現代社会の感謝を忘れた人々などに言及し、それらを小山教会の人々にも重ね合わせていく。しかしそこにも感謝と賛美に生きる道のあることを示唆し、それは神の恵みの選びを知るところから来る

と語りかけていく。まさに積義と説教が堅く結びついている。

ところで聖書テキストを出発地として話しを進めていくという流れは演繹的である。そのような展開において、説明的論調で聞き手を納得させていこうとする語り方の多いことがいささか気になった。時には帰納的に展開させたり、思想や概念を説明的に提示するに留まらず、それらをもっと「イメージ化」することによって語りかけるならばインパクトはさらに増すであろうと思われた次第である。

ちなみに著者は神学校で「新約聖書学」と「説教学」を教えておられる。本書はその真剣な取り組みの見事な開花と結実であるとも言えるであろう。

(ふじわら・みちお)お茶の水聖書学院院長  
(四六判・二四六頁・本体一〇〇〇円+税・新教出版社)



キリスト教書総目録 2018年版

明治150年 近代日本とキリスト教 巻頭エッセイ 鈴木龍久氏 小楢山ルイ氏

内容 総記(年鑑 辞事)典 図説(年表/全集(著作集) 叢書 講座) 聖書学/神学/宗教学 思想 倫理/伝記(フライング) 信仰/入門書 人生論 説教集/文学(小説 評論)エッセイ 詩劇) 音楽 美術 建築 教育 保育 心理 社会福祉/児童 絵本/讃美歌 式文/DVD CD カセット レデオ/キリスト教関連雑誌 新聞 書名索引/著者索引/掲載出版社名簿

■ A5判 一般頒価1冊286円+税 送料250円  
■ お近くの書店様でお求めください。

キリスト教書総目録刊行会  
事務局 〒162-8710 東京都新宿区  
東五軒町6-24 トーハンビル内  
TEL.03-3266-9521

全国のキリスト教書店員が選んだ

いちばん読んでほしい本

# キリスト教本屋大賞

# 2018

2017年1月～12月に出版されたキリスト教書の中から  
全国のキリスト教書店員の投票により大賞が決定しました。



**こころの深呼吸**  
気づきと癒しの言葉366  
片柳弘史◎著  
972円 (教文館)

聖書のことばやキリスト教独特の表現は一切出て来ないのに、日々たった1ページ、しかも限られた文字数のなかでこんなにも心があたたまり、「神さまの愛」なるものをめいっぱい感じられる本を、他に知りません。  
大阪キリスト教書店 上田玲子さん

読者が選ぶ「いいね！」大賞と  
ダブル受賞！

苦しみの中で神様に助けを求めて祈っていると、思いがけない気づきが、ふと心に湧き上がることがあります。そのようにして生まれた気づきを、言葉にしまとめたのがこの本です。今後とも、どうぞよろしく願いいたします。

片柳弘史

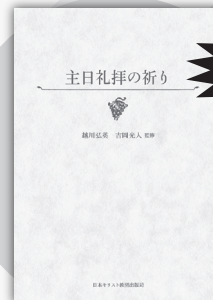
全国のキリスト教書店にてフェア展開中！ぜひご来店ください

- |                   |                |               |                 |
|-------------------|----------------|---------------|-----------------|
| ●二次投票参加書店         | 待晨堂            | CLC BOOKS金沢店  | 神戸キリスト教書店       |
| 北海道キリスト教書店        | 教文館            | 静岡聖文舎         | 広島聖文舎           |
| 善隣館書店             | CLC BOOKSお茶の水店 | 名古屋聖文舎        | 徳島キリスト教書店       |
| 仙台キリスト教書店         | バイブルハウス南青山     | CLC BOOKS名古屋店 | 松山キリスト教書店       |
| オアシス仙台店           | 横浜キリスト教書店      | 京都ヨルダン社       | 新生館             |
| 恵泉書房              | 清光書店           | CLC BOOKS京都店  | 北九州キリスト教ブックセンター |
| 聖公書店              | ライフセンター新潟書店    | 大阪キリスト教書店     | キリスト教書店ハレルヤ     |
| ABC(アパコブックセンター)書店 | 豊かな命聖書書店       | びぶろずの森        | 沖縄キリスト教書店       |

主日礼拝の祈り

越川弘英 / 吉岡光人◎監修

1,620円 (日本キリスト教団出版局)



第2位

来店者によく聞かれるのは、「礼拝の中で祈りをする機会があるのですが、参考になる本はありますか？」です。本書は、主日礼拝の祈りを例示する祈祷集です。祈りの参考におすすめの1冊です。  
仙台キリスト教書店 黒田 忠さん

オススメ

大切なことはとてもシンプルなのに、複雑な教会生活に息切れしそうだっただけには少し刺激的でした。やわらかな版画に、詩のようななめらかなことばなのに、私も泉を求めているひとりなのかもしれません。  
善隣館書店 大森紀代美さん

いのちの水

トム・ハーパー◎作 中村吉基◎訳



第3位

いのちの水  
トム・ハーパー◎作 中村吉基◎訳  
望月麻生◎絵 1,620円 (新教出版社)

聖書を読んだ30人

夏目漱石から山本五十六まで



鈴木範久◎著  
1,728円  
(日本聖書協会)

第4位

花の詩画集

足で歩いた頃のこと



星野富弘◎著  
1,728円  
(偕成社)

第5位

地図で学ぶ 宗教改革



ティム・ダウリー◎著  
青木義紀◎訳  
2,592円  
(いのちのことば社)

第6位

はじめは愛着から

人を信じ、自分を信じる子どもに



佐々木正美◎著  
山脇百合子◎画  
972円  
(福音館書店)

第7位

広げて見る

聖書・キリスト教歴史年表



青木義紀◎訳  
3,024円  
(いのちのことば社)

第8位

聖書は何と語っているでしょう  
「生きること」「死ぬこと」そして「永遠に生きること」



湊 晶子◎著  
1,080円  
(ヨベル)

第9位

ポップカルチャーを哲学する

福音の文脈化に向けて



高橋優子◎著  
2,160円  
(新教出版社)

第10位

神父さま、なぜ日本に？

ザビエルに続く宣教師たち



女子パウロ会◎編  
1,296円  
(女子パウロ会)

第11位



主催 キリスト教出版販売協会  
※表示価格は8%税込価格

フェイスブックページで「いいね！」をクリックして最新情報をGET！

QRコードで簡単アクセス！

<https://www.facebook.com/christianbookoftheyear>

読者が選ぶ「いいね！」大賞の結果やキリスト教本屋大賞の詳細は上記ページをご覧ください。



書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jb-shop.com	sasaki@jb-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用			02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区1-36 敷島センター・1771F	022-223-2736	共用		fqcwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	〒新中延町2-2 榎ヶ丘センタービル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	350-1331	埼玉県狭山市新狭山1-5-1	042-900-2771	042-900-2722		seikoshoten@bible.or.jp	00160-2-18410
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taisindo-books.jimb.com/	taisindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス南青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.biglobe.jp/~yohatara.cds/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://nagoya-seibunshita.coccan.jp/	nagoya-seibunshita@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834	http://web.kyoto-net.or.jp/people/kjordan/	kjordan@mbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0002	大阪市北区曾根崎新地2-1-15	06-6345-2928	06-6345-2187	http://osakacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
バイブルハウスびぶるすの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132		sakai-jbs@bible.or.jp	00160-2-18410
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	共用		kobe-kirisyoy@mse.biglobe.ne.jp	01150-7-45120
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一丁目1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geocities.jp/masujama_1007/mex.htm	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用		kbookcenter@bible.or.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖繩キリスト教書店	903-0207	中瀬調子字跡777 沖縄キリスト教院内	098-943-7221	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

### 既刊案内 (2018年6月～7月) (定価はすべて本体価格+税)

編・著・訳者	書名	判型	頁	本体価格	版元	発行日
日本キリスト教文化協会編	宗教改革の現代的意義 — 宗教改革五〇〇年記念講演集	A 5	184	1,500	教文館	6/30
大嶋裕香	神に愛された女性たち — 西洋名画と読む聖書	四六	160	1,000	〃	6/30
日本キリスト教団出版局編	説教黙想アレテイヤ ローマの信徒への手紙 すべての壁をぶつ壊せ! — Rook'in 牧師の丸ごと世界一周	B 5	392	4,500	日本キリスト教団出版局	6/20
関野和寛	クエーカー入門	四六	88	1,000	〃	6/25
ピンク・ダン デライオン著 中野泰治訳	クエーカー入門	四六		2,400	新教出版社	6/30
工藤信夫	暴力と人間 — トゥルニエとグ リュエを読む	四六	304	1,600	ヨベル	6/20
ホーリネス弾圧記 念同志会委員会編	神の言はつながれていない川 — ホーリネス弾圧記 念講演会・説教集	四六	256	1,500	〃	6/26
宮村武夫	福音の力と事実 — 宮村武夫著作集4	四六	328	1,800	〃	6/30
A.E.マクグラス著 本多峰子訳	旧約新約聖書ガイド — 創世記からヨハ ネの黙示録まで	A 5	734	7,200	教文館	7/30
黒田裕	ウィリアムス神学館叢書Ⅱ いまさら聞けない! ?キリスト教 — 聖書・聖書朗読・説教編	A 5	212	1,500	〃	7/30
平野克己編	聞き書き 加藤常昭 — 説教・伝道・ 戦後をめぐって	四六	310	3,000	〃	7/30
鈴木光	伝道のステップ1、2、3 — 信徒と牧師、 力を合わせて	A 5	128	1,400	日本キリスト教団出版局	7/10
福嶋揚	カール・バルト — 未来学としての神学	四六	200	1,800	〃	7/25
石田学	エフェソ書を読む — 釈義と説教	四六	246	2,000	新教出版社	7/31
朝岡勝、大嶋重徳著	教えてパスターズ	A 5	220	1,500	キリスト新聞社	7/25
吉田実	絵画と御言葉 — 美術作品に表され たキリスト教信仰	A 5		3,200	一麦出版社	7/8
菊地讓	続 この器では 受けきれなくて — 山谷兄弟の家伝道所物語	四六	368	1,800	ヨベル	7/20



# 福音と世界

2018年10月号

## 特集 アナキズムとキリスト教

寄稿者 栗原康、五井健太郎、高祖三郎

小川さやか、後藤あゆみ、井口智子

書評・役重善洋「近代日本の植民地主義とジェン  
タイル・シオニズム」(渡辺祐子)／新連載 私は  
ロックがわからない(山口政隆)／好評連載 福音  
の地下水脈(ケロッピー前田)、野に咲く民衆の神  
学(森宣雄)、聖書とわたし(保坂和志)、地のい  
と低きところにホサナ(ブレイデイみかこ)ほか

A5判・本体588円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyō-pb.com

## 編集室から

本誌六一七頁に紹介されている、鈴木光著『伝道のステップ  
1、2、3——信徒と牧師、力を合わせて』(日本キリスト教  
団出版局)を読んだ時、ふと『やまない雨はない——妻の死、  
うつ病、それから』(文藝春秋)という本を思い出した。

著者の倉嶋厚さんは氣象庁を退職後、自分の番組を持つほどの  
氣象キャスターとなったが、突然のガン宣告に思い悩み、心  
の拠りどころを求めて教会の門を叩く。当初は牧師や信徒の親  
切に助けられ、足繁く教会に通うのだが、周囲の期待に応えら  
れない遅々とした信仰の歩みに悩み、うつ病気味となって教会  
を離れてしまったという。

同じような体験を作家・角田光代さんが『福音と世界』二〇  
一八年四月号に書かれている。角田さんは小学校から高校まで  
キリスト教主義学校で学んだが、聖書と神を信じるあまり、自

分には洗礼を受ける資格がないと悩み、高校を卒業してキリス  
ト教から離れた時には「ほっとした」と述べられている。しか  
し、二人ともキリスト教から決定的に離れたわけではない。前  
述の倉嶋さんは、後年、お連れ合いの葬儀を牧師に依頼してい  
るし、角田さんも、「未だに私のなかに、聖書の言葉やフレー  
ズはあり続け」といっていると、そのエッセイを結んでいる。

教会を訪れる人の動機も多様である。どう応対したら  
よいかわからない場合もある。そのような時、主観的な対応  
に陥らないよう『伝道のステップ1、2、3』を再読したい。

(寺田)

本のひろば 2018年11月号 予告

本・批評と紹介…A・E・マクグラス著『旧約新約聖書ガイド』、  
日本キリスト教文化協会編『宗教改革の現代的意義』、菊地  
讓著『続この器では受け切れなくて』日本カルヴァン研究会  
発行『カルヴァン研究——特集「ものとしるし」』、柴崎 聰著  
『香りの舟』、松谷好明著『キリスト者への問い』、アレクサンド  
リアのクレメンス著『ストロマトイス(綴織) Ⅱ』他

# シリーズ和解の神学 すべてのものとの 和解

E. カトンゴレ/C. ライス  
佐藤容子/平野克己 訳



第2回  
配本

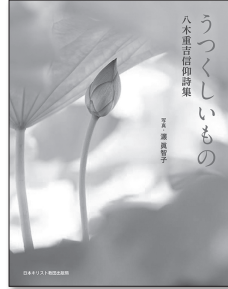
◆四六判 並製・予210頁・2,160円

2018年12月刊行予定

ウガンダ育ちのカトリック司祭カトンゴレと、和解の働きに取り組むプロテスタント信徒ライスが、和解の新たなヴィジョンを示す。

# うつくしいもの 八木重吉信仰詩集

濃 眞智子 写真



若くして召された八木重吉の2000あまりの詩の中から、信仰詩を中心に65編を精選し、静謐な写真を添える。歌手の沢知恵氏による解説付き。

◆A5判変型 並製・80頁・1,296円

2018年9月25日刊行予定

20世紀最大の神学者カール・バルトの召天から2018年12月で50年——閉塞感におおわれた今こそ、未来の希望を指し示したバルトの神学と言葉に触れよう

## カール・バルト 説教選集 全18巻 召天50年記念セット

雨宮栄一/大崎節郎/小川圭治 監修



予約  
受付中  
!

※ 1、9、12巻は函なし

セット  
特別価格 **100,000円**

◆各巻 A5判 上製函入り  
212~434頁

30  
限定

バルト神学の母胎となった、神のことばをとりつき福音の喜びを力強く語る説教。刊行当時翻訳可能なすべての説教を収録。

セット特典

- 便利な「説教聖書箇所一覧表」付き
- 1巻・9巻・12巻は記念セット限定でハードカバーにて復刊(函は付属しません)

現在品切れている「カール・バルト説教選集」第1巻・第9巻・第12巻をソフトカバーでオンデマンド復刊！単巻でも購入できるようになります！  
2018年12月発売予定、予約受付中！

2018年12月発売予定

# 福音とは何か

佐藤司郎／吉田新編

聖書の福音から福音主義へ



福音とは何か

福音は歴史上いかに理解され、いかに伝えられてきたのか？ 現代の教会が問うべき福音の意義を、広範な分野から考察する15の論考。

●四六判 460頁・本体3,600円

# 平和とは何か

聖書と教会のヴィジョン

W・ブルツゲマン 小友聡／宮寄薫訳

聖書は平和についてどのように語っているか？ 教会が果たすべき使命は何か？ 現代を代表する旧約学者によるシャロームの神学への招き！ ●四六判 368頁・本体2,900円

# 神の国と世界の回復

稲垣久和編

キリスト教の公共的使命



神の国と世界の回復

新約聖書学から賀川豊彦、日本思想史まで取り上げ、イエスの説いた「神の国」を多角的に捉え直す試み。宣教の新たな突破口を探る論文集。

●四六判 250頁・本体1,800円

乞うご期待！

# 手塚治虫の旧約聖書物語

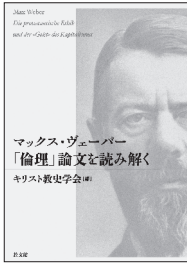
In The Beginning



コンプリートDVD+ファンブック  
手塚治虫の遺作アニメが9枚組DVDボックスで登場！旧約25話＋イエスの誕生全26話を収録。 ●本体28,500円

9月の新刊 (価格表示は税抜)

キリスト教史学から  
テーゼを徹底検証



マックス・ヴェーバー  
「倫理」論文を読み解く  
キリスト教史学会編

マックス・ヴェーバー  
「倫理」論文を読み解く  
キリスト教史学会編  
『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』における「ヴェーバー・テーゼ」は、果たして歴史的事実に堪えるのか？ ●A5判 204頁・本体2,000円



教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 TEL03-3561-5549 (出版部)  
本のご注文は (e-shop 教文館) へ! <http://shop-kyobunkwan.com/>

shop教文館

本のご案内 第七三〇号 二〇一八年十月号

発行所 〒1032084 東京都新宿区新小川町九一 一般財団法人キリスト教文書センター  
電話03-3336-0165 〇 振替0077-01512679  
発行人 本村利春 編集人 土肥研 印刷所 (株)平河工業社  
発売所 日本キリスト教書販売株式会社 電話03-3336-0166 〇

定価七八円(税抜七四円) 62円  
一年分三〇〇円(送料共)